

## 自助具の工房・さやま

### 「自助具」とは、

からだが不自由なため、日常生活の中で不便なこと、できないこと、人に頼まねばならないことがたくさんあります。そんな毎日の生活を少しでも容易に、自分でできるように工夫された道具のことです。

私たちは、自助具の普及を目的として、障がいの程度に合わせた自助具を作成し、自助具や福祉機器に関する情報の提供など、いろいろな相談に応じています。

- 主な活動は、
- ①相談に基づく自助具の設計・製作、
  - ②各種展示会への自助具の展示、
  - ③自助具の製作技術の普及、
  - ④自助具、福祉機器に関する情報収集などです。



グリップ付きスプーンと皿ガード



牛乳パックオープナー



片手で使えるビンオープナー



ペットボトルオープナー

自助具については、ふれあいサロン（本紙P.7）でも紹介しておりますので、ぜひご見学に来てください。

製作の依頼、または活動への参加についてはボランティアセンターまでご連絡ください。

# ボランティアだより

編集・発行  
 大阪狭山市ボランティアセンター  
 大阪狭山市今熊1丁目85番地  
 TEL 072-367-6601  
 FAX 072-366-7407

## グループ紹介

笑顔は人にのみ与えられた表情ですが素敵な笑顔に支えられて「細く長く楽しく」をモットーに活動してきました。これからもつくしの会としてより多くの人たちと時間・空間を共有し共感しあえるような豊かな活動を目指していきたいと思えます。



## 「つくしの会」

「地域でお役に立てたら」との思いから民生委員を中心に誕生したのがつくしの会です。それから37年が経ちました。主な活動はひとり暮らし老人会食会の調理協力です。「ごちそうさまでした。おいしかったです。また来月も楽しみにしています。」のことばと笑顔に元気をいただいています。

また、2年前から新たな事業にも取り組んでいます。市内の高齢者福祉施設を訪問してのふれあい料理教室は毎回好評で、今年2回の計画を立てました。1回目は10月にてまり寿司、いなり寿司、いちご大福などの彩りもきれいな昼食会を行います。手作り感がいっぱい利用者の皆さんに喜んでいただけたそうです。6月の定例会で賑やかに予定演習もして準備はバッチリ！2回目は別の施設でおやつクッキングを予定しています。

ふたつの施設でどんな出会いが待っているのでしょうか。今からワクワクしています。

## ひとり暮らし老人合同会食会を開催！！

大阪狭山市社会福祉協議会では、市内に身寄りのいない 65 歳以上のひとり暮らしの人を対象に会食会を実施しています。普段は 2 グループに分かれて、月に 2 回実施していますが、6 月は 2 グループ合同で行いました。利用者 36 人、ボランティア 11 人の総勢 47 人で、煮込みハンバーグや大豆とひじきの煮物、大根サラダにフルーツなど、いろいろなおかずがたくさん入った手作りのお弁当をおいしくいただきました。



会食会の後は、ハーモニカ演奏グループ「ムジカ」にお越しいただき、すてきなハーモニカ演奏に合わせてみんなで楽しく合唱しました。昔よく聴いた歌に合わせて、歌詞カードをみながら一緒に口ずさむ人、前でマイクをもって歌っている人、静かに聴いている人、それぞれ思い思いに楽しいひとときを過ごしました。

## 夏のボランティアジュニアスクールを開催！！



8 月 20 日、福祉センターさやま荘と特別養護老人ホーム ファヴォーレを会場に開催しました。

当日は、市内の小学 3 年生から 6 年生の子どもたち 13 人が集まりました。

午前中、ボランティアを講師に「サザエさん」をテーマにした手話やおはなし、おりがみなどを学びました。そして、午後から特別養護老人ホーム ファヴォーレに移動し、午前中学んだことを施設の利用者の前で発表しました。

午前中おとなしなかった子どもたちも、利用者の前では元気に発表し、涙を流す人もいました。一生懸命な子どもたちから、私たちも多くのことを学んだ 1 日となりました。



## 施設の夏祭りに行ってきました

7 月 26 日にフレスコ・ファヴォーレで夏祭りが、翌 27 日には、くみのき苑で納涼大会が開催されました。

ボランティアグループ連絡会からも、26 日に 9 人、27 日に 15 人が模擬店の販売に協力しました。

利用者と家族だけでなく、地域の方の参加もあり、会場は、多くの人で盛り上がり、私たちも、いろいろな模擬店や催しに、楽しいひとときを一緒に過ごしました。



フレスコ・ファヴォーレ



くみのき苑

盆踊りや花火で、夏の暑さを吹き飛ばし、思い出に残る素敵な一日となりました。

# ふれあいサロンにいらっしやい

ふれあいサロンとは、ボランティアによる市民の憩いの場です。  
毎月第3金曜日 公民館「展示ホール」

## 喫茶コーナー

午前10時～午後3時30分

おいしいコーヒーを飲みながら、  
心とからだをゆっくり休めませんか。



伝統の  
薫りコーヒー



さあ開店



月に一度のお楽しみ時間!! 話もはずみます♪

## 自助具展示コーナー

午前11時～午後3時

「自助具の工房さやま」の製作した自助具の  
数々を展示しています。



## 持ち込み企画コーナー

午前11時～無くなり次第、終了

ボランティアさん手づくりの品を紹介  
事前申込は必要ありません。

一緒に楽しくつくりましょう♪

料金：おおむね100円



10月のふれあいサロンは、18(土)19(日)に開催する「はばたきフェスタ」で実施します。  
場所も、福祉センターさつき荘「サロン室」で行いますので、お間違いのないようお願いいたします。  
11月はいつも通り公民館で行います。皆様のご来店を心よりお待ちしております。

### ボランティアだよりができるまで

年3回(6月・10月・2月)発行

#### ○編集会議

発行月の2ヶ月前からスタートします!  
おおむね5回程度、週1回程度のペースで開催します。

#### 1、レイアウト

掲載する内容とレイアウトを検討します



#### 2、原稿依頼・取材

掲載する内容の原稿づくり&原稿の作成依頼特集など、必要に応じて取材に行くことも



#### 3、原稿の確認

集まった原稿をチェックします



#### 4、出稿

集まった原稿とレイアウトのイメージを印刷屋に伝えます



#### 5、校正

いよいよ大詰め!印刷屋より届いた紙面をもとに最終チェック!



#### 6、印刷

校正した紙面を印刷屋に依頼します  
あとは、市の広報に挟まれて手元に届くのを楽しみに待ちます

少ないメンバーですが、楽しくボランティアの活動を発信する広報紙をつくっています。

日頃、ボランティア活動をされているあなた、広報紙づくりに興味のあるあなた、一緒に活動しませんか。お問い合わせはボランティアセンターまで。

## ほのほのメモ



人は生まれ育った環境で大きく人生が変わる。ここに新聞を読んで目にとまったひとりの青年の話を紹介したいと思う。

岡山県笠岡市の山あいに児童養護施設「悲眼院」がある。施設長は、すぐそばの真言宗の寺「明王院」の住職。事情があって親と一緒に生活できない子どもたち約60人が暮らす。A(19)さんは2歳からここで育った。「お母さんがひとりでは育てられなかったからかなあ」施設に入ったいきさつはよく知らない。気にしない

ようにもした。毎朝、寺の境内でラジオ体操をして学校へ行き、元旦には本堂で住職のお経を聞いた。でも、中学生になると集団生活が息苦しくなった。休日でも朝7時に起きて掃除をし、施設の行事があるときは、友だちから遊びに誘われても断るしかなかった。担当の児童指導員にたびたび叱りつけられた。だが、その後には必ず続く言葉があった。「年下の子どもたちは、お前の背中を見て育つ」と。胸に響いた。「先生たちには支えられて、今がある。これから後輩のお手本になりたい。それが施設への恩返しだと思った。その誓いを形にする方法が宮大工だった。登下校の道すがら、伝統的

な日本家屋を建てる大工の姿に何度も目が止まった。くぎを使わずに木材を組み上げていく工法に興味をそらされた。「お寺もこんなふうには造られたのか」  
明王院は築150年を超え、柱や梁に傷みが目立っていた。「わが家と同然。この手でよみがえらせた」と宮大工への思いを強くした。体力をつけるため高校ではレスリング部に入った。片道11キロを自転車で通い、3年間、皆勤賞だった。16年間過ごした施設を出



た今年3月。見送りに来てくれた人々の前で宣言した。「宮大工になって明王院を建て直します」社団法人が運営する「大工育成塾」の塾生になった。早朝から道具の研ぎ方、使い方の基本を繰り返して学ぶ。「大工の仕事は『石の上にも10年』や」と、職人の厳しさを教わる。

施設名の悲眼院は仏教用語に由来し「仏の力で心の目を開く」ことを意味するのだと言う。「施設がぼくの進む道を示してくれた」恩返しに向け、今、この青年の人生は時を刻み始めたばかりである。  
この青年に「くじけずにがんばれ」とエールを贈りたい。

## 編集後記



夜、虫の音に少し秋を感じる頃となりました。  
今年の夏は台風や不安定な気候で、短期間のゲリラ豪雨により日本列島あちこちで被害が続出しました。特に、広島県の土砂災害は、たくさんの方の死者や行方不明がでて心が痛みました。温暖化で地球全体が少しずつおかしくなっている気がします。

私たちも日頃から防災意識を高め、準備を怠ることなく、また近所との人間関係の絆を深めることも大切です。  
〈楠田〉